審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和6年度 第1回甲州市廃棄物減等推進審議会
開催日時	令和6年10月9日 午後7時～午後8時30分
開催場所	甲州市役所 1階 国際交流市民交流センター
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般廃棄物の処理状況について（令和5年度） ② 一般廃棄物処理基本計画の見直しについて ③ 災害廃棄物処理計画について ④ その他
出席委員	山下 宏 委員、川崎 敏朗 委員、瀧澤 康雄 委員、 安間 一彦 委員、野澤 学 委員、中村 道子 委員、 桐原 五十鈴 委員、平塚 明美 委員
会議の公開又は非公開の区分	公 開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審 議 概 要	別紙のとおり
事務局に係る事項	環境課 4名 (坂本課長、中村リーダー、三森、姉川)
そ の 他	

【瀧澤議長】

事務局から(1)の一般廃棄物の処理状況について説明をお願いします。

【事務局:中村 L】

資料1の1ページをご参照ください。

こちらは令和5年度までの実績を含みました甲州市の見込みの年間排出量で5年間の推移になります。事前に配付しました一般廃棄物の処理基本計画27ページの一番下に記載がありますが、減量化率は、令和11年度までに総排出量を平成30年度比として11%削減する。

リサイクル率は、令和11年度までに21%以上にするとあり、この目標値を基準として、令和5年度実績についてご報告いたします。

ゴミの年間排出量ですが、前年度10,129.8トから574.4ト減少しまして目標値10,318.6トから763.2ト下回りまして、9,555.4トでございました。

内訳につきましては、一般家庭から出るごみは前年度の8072.9トから366.1ト減少しまして7,706.8トでした。こちらの量は可燃ゴミ、不燃ゴミ、粗大ゴミ、資源物、集団回収を含んだ量になります。事業所から出るゴミは前年度1,859.0トから201.2ト減少して、1,657.8トになりました。リサイクル率は前年度から0.3ポイント減りまして、目標値から2.7ポイント下回り、15.9%となりました。最終処分率は前年度から0.3ポイント増え、目標値から1.0ポイント上回り、4.3%になりました。

続きまして資料1の2ページの方をご覧ください。

「安全・安心で健やかに暮らせる資源循環のまちづくりをめざした将来像」に向けて基本方針を(Aのゴミの発生抑制)と、(Bの資源化の推進)に分類し、それぞれの基本目標を定めて具体的な取り組みを実施しました。その取り組み施策として、資料1の3ページから5ページに(Aのゴミの発生抑制)について、令和元年度から令和5年度まで実施しており、令和6年度も取り組んでおりますので、継続としていきます。

資料1の6ページ(Bの資源化の推進)についても、取り組み施策として、令和元年度から令和5年度まで実施しており、令和2年度の継続としております。

資料1の7ページをご参照ください。令和5年度までの実績を含めました甲州市の生活排水処理率の5年間の推移となります。

一般廃棄物処理基本計画56ページ8段目の方に記載がありますが、生活排水処理率は、平成30年度の68.4%から令和11年度は約79.0%に上昇させるとあり、この目標値を基準に令和5年度までの実績について報告します。

生活排水処理率は木曜日の73.2から1.7ポイント増の74.9%でした。

資料1の8ページの基本施策に対する取り組みをご覧ください。「自然と共生する環境保全のまちづくりをめざした将来像」に向けて、基本方針を(Aの水環境の保全)とし、基本施策として、具体的な取り組みを実施しました。

その取組施策として、資料1の9ページに(Aの水環境の保全)について、令和元年度から令和5年度まで実施しており、令和6年度は現在も取り組んでおりますので、継続としております。

【瀧澤議長】

何か質問やご意見ございますか。無いようですので、(2)の一般廃棄物処理基本計画の見直しについて説明をお願いします。

【事務局:中村 L】

一般廃棄物処理基本計画の見直しということで、先程の資料 1 の 1 ページと計画の 28 ページの一番下の部分をご覧ください。

初めにゴミの年間総排出量は、令和 11 年度の目標値の数字を既にご下回りました。要因については資料にありますが、コロナが明けて、対面での分別指導などができるようになったためと思います。更なる減量をめざした減量化率の見直し(11%以上の削減)が必要です。

次に、リサイクル率は、前年度から少し減り、目標値からも大きく下回っております。

要因は、ゴミの総排出量自体が大幅に減っていることや資料にもありますが、近年、新聞や紙類の回収量が減っており、電子書籍購入等のペーパーレス化が進んでいるためであると思います。社会情勢や近隣市の実績等を分析して、適正なりサイクル率の見直しが必要と思います。

以上 2 点が計画の目標値から見直しが必要な事項となります。

また、先週の 10 月 2 日に環境審議会が開催され、ご存じの委員様もいらっしゃいますけれども、リサイクルステーションの正しい使い方周知、区、組に入っていない外国人等への声掛け方法及びヨーロッパの生ゴミ処理に学ぶ取組み等、貴重なご意見がありましたので、今後の審議会で報告できるように課内でよく協議し、実施に向けて検討したいと思います。

【瀧澤議長】

事務局から基本計画の見直しについて説明を受けました。ご意見ございませんか？

【事務局:坂本課長】

事務局から追加でご説明させていただきたいと思います。こちらの計画は、10 年計画で、今年が 5 年目になります。当初の計画の中で、5 年間の経過を見ながら見直しをするような計画の作り込みになっておりますので、今回、ご説明させていただいた内容をまず、皆様のご意見をお伺いしながら、来年度、精査して見直しについて進めてまいりたいというふうに考えております。その見直しについてリーダーから説明がありましたゴミの減量化は順調に進んでいるとみているので改めて目標を立てる方がいいということで、事務局では考えていますが、そちらについても改めてご審議いただく内容と思います。

なかなかリサイクル率が上がっていないというのが、会長からも実績がありましたけれどもそちらについても、今年度意見をいただきながら、状況を把握して、新たな取り組み等を設定していくべきかどうかを今年度までの結果を踏まえて、来年度審議をしていくという形で、そこを見据えた上で今日の結果についてご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【瀧澤会長】

課長からの説明ですけれども、計画の見直しを来年度やるということですね。来年度の見直しに向けて今年の 2 回目までも検討期間ということで、よろしくお願いいたします。

食品ロスの問題が、やっぱり生ゴミ処理の原因になっていると思うが、何か改善策があるかな…

【桐原委員】

買ったものはしっかりと使い切ることが大切だと思います。

食生活だけで変えていくのでは無く、みんなで意識して、買うことは良いけれども、きちんと使うという気持ちでチェックすることが必要です。

【山下委員】

リサイクル率について、資料を見ますと、ごみの総排出量に対して資源化量という数値ですね。今の説明ですと、新聞紙等の各種紙類が減っているということですが、ペットボトル、アルミ、ダンボール等、一生懸命リサイクルステーションに持ってきてくださいと市民に話をして、PR している

のですが、私も存じ上げなかったのですが、ペットボトルはたくさん出ているようにみえていた
ので、全体的にみるとリサイクル率というのは、落ち込んでいるということですね？

全体的な数字がわからなかったので素朴な疑問を聞かせていただこうと思いましたので、よろしく
お願いします。

【事務局：中村 L】

リサイクル率は、大幅に目標値と開きが出ている状況です。

ただし、甲府・峡東クリーンセンターに持ち込んでいる近隣市(甲府市・笛吹市・山梨市)と比較す
ると、甲州市のリサイクル率は4市で一番高い数字で、資料の資源化量として考慮されていない
数字があります。例えば、甲府・峡東クリーンセンターでゴミの焼却によって発生するスラグ、焼き
鉄・焼きアルミ等の焼却磁性物量、破碎によって発生する破碎鉄、破碎アルミ等の破碎資源化物
量の数字は資源化量として含んでいません。

これらの数字を資源化量に含んで見比べますと、甲州市が令和 5 年度実績は 4 市の中で一番
高い数字で 21.4%という数字になっています。当初の計画は甲府・峡東クリーンセンターの建
設がまだという状況で、資源化量が先程あげたようなスラグ等をカウントした場合とカウントしな
い場合では数字に大きな離れが出てきます。

笛吹市は 20.8%で、甲州市が 21.4%、隣の山梨市が 19.2%数字になっています。

【瀧澤議長】

ちょっと整理させてください。リサイクル率の 15.9%という数字の中に再資源化している例えば、
鉄くずやゴミステーションで収集している金属類を反映してない数字があるということですか？

【事務局：中村 L】

分類上、資源物の総量とは別になっています。

【瀧澤議長】

資源化量の中にゴミステーションである金属類が入っていないということですか？

それを入れると 21.4%になりますという説明でよろしいでしょうか？

【事務局：中村 L】

元々、資源物として回収している量とは別の量になります。

【事務局：坂本課長】

議長、お渡ししました数字が今までの計算で出ている数字ですので、確かにちょっと目標として
は達していないという部分があり、詳しい算出の内容が把握しきれていないので、今回のご意見
の中でやっぱりリサイクル率が低いっていうのはかなり問題じゃないかというご意見をいただい
たということで今後、ご指摘いただいたリサイクル率が低い要因と、計算内容を今回の審議会で
課題提起をいただいたということで、次の審議会をやる時に改めてこの要因を詳しくご説明でき
るように準備をさせていただきたいと思えます。また、先程のお話をさせていただいたリサイク
ルステーションの使い方も含めて、その要因と低迷を明確にする重要な事項になったと思えますの
で、そこへ向けて、甲州市としてこういう取り組みはどうかということがあれば、数字の方を集め
てご報告させていただければと思えますので、よろしく願いいたします。

【瀧澤議長】

何でリサイクル率が下がっているのか、今課長さんのおっしゃる通りで、一般廃棄物の処理基本
計画の見直し、地域の調査にあたり、一番関心が出てくるころだと思いますので、分かりやすく
ご説明いただくようお願いいたします。

資料に小学校4年生対象に出前授業を実施したということですが、今までコロナでなかなかできなかった。それで、高齢化で、1人暮らしの家もたくさんあり、そういう方たちを集めて出前講座すること、小学校4年生だけでなく、中・高校生になると、ポイポイゴミを捨てながら、自転車やバイクに乗っている。歩いているとそちらの方の周知もしっかりしていただきたいと思うときがあります。もし、できましたらコロナも少し落ち着いてきているのでよろしくお願ひしたいと思います。

【事務局:中村 L】

生涯学習課が所管の出前講座があります。そういった機会を通じて積極的に周知いたします。高齢者や中高生の調査及び周知も積極的にまいりますのでよろしくお願ひします。

【事務局:坂本課長】

今年度、先ほどご指摘いただいた小学校の出前授業は7校で一昨年より増えています。4年生というのは社会科見学のタイミングという形です。講座につきましても、1件の依頼があり、1回の実績を既に上げておりますが、まだまだ周知が必要とは思ひます。また、独居の高齢の方が増えているということで、そういった方への出し方、分別の仕方をどういふふうに周知するかというのは課題だと思ひております。携帯電話で使えるように、報告の中にもございませうけれども、ゴミ分別アプリを利用しまして、利用の推奨をイベント等の取り組みで進めているわけですが、なかなか高齢の方とか、そういった予防的なアプローチがちょっと薄くなっておりますので、生涯学習課で行っている出前講座にゴミの出し方に関するメニューもございませうのでそういったところに合わせて、中高生は、今お伺ひしましたが、少し難いですが、何か良い機会を見つけることができたらというふうに思ひます。基本的にゴミの資源化、減量化っていうのは継続して呼びかけをしていかなきゃいけないところですので、コロナ禍でゴミが増えてしまっせうかもしれないとか、生活習慣が変わったところで意識が薄くなっている部分はここ1年感じられますので、今の実績を踏まえ、改めて推進させていくようなものを検討していきたいというふうに考えております。

【瀧澤議長】

もう一ついいですか。不法投棄ですが、甲州市はどのような対策をとっていますか？ 県の方が見つけたら写真を撮って、その位置をしっかりと把握して警察に届けるという形ですが、甲州市ではどのような実施をしているのか。

【事務局:中村 L】

笛吹市と山梨市と甲州市の峡東地域で組織された廃棄物対策連絡協議会で委託している職員が山間部を定期的にパトロールと回収を行っています。基本的に1人で軽の車両で回っていますので、車に詰める範囲を回収しています。1人で対応できないものにつきましては、私達職員が回収に行っている状況です。それ以上の大規模な場合は、3市の廃棄物対策連絡協議会の限られた予算の範囲で消化する形になっています。

【瀧澤議長】

リサイクル率を上げるためには、実際にリサイクルステーションの出しやすさという問題があると思ひますが、先日の保健環境の会議でも、以前はチラシと新聞を分けて出すように説明したいたが、リサイクル率も上がった今はチラシも新聞と一緒にリサイクルしていると聞きました。実際にリサイクル業者は、別に回収しているのか一緒に回収しているのか、もしも、一緒に回収しているのであれば、チラシと新聞を分ける必要も全くないと思ひるので、そこを出しやすくすること

もリサイクル率を上げる形にはなると思うので、調べていただいて、可能なのであれば、新聞とチラシは一緒に出すという形も一つだと思いますので、よろしくをお願いします。

【事務局:坂本課長】

すいません。業者の対応の確認がまだできていませんので、確認でき次第ということでご理解いただきたいと思います。

【瀧澤議長】

(3)災害廃棄物処理計画について事務局よりお願いします。

【事務局:三森】

まず、災害廃棄物処理計画の作成の背景をお伝えします。

この計画書の1ページに示しましたが、平成23年の東日本大震災です。

想定をはるかに超える災害であったため、発災前に策定した計画が有効に機能した自治体はほとんどありませんでした。

このことから環境省は平成26年3月に災害廃棄物対策指針を策定して、その後、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、いわゆる廃掃法で改定され、平成28年1月に地方公共団体は、災害処理計画を策定することが明記されました。

このことから山梨県は、平成29年4月に山梨災害廃棄物処理計画を策定しまして、甲州市は平成31年3月に甲州市災害廃棄物処理計画を策定しました。

この計画の作成の目的につきましては、平時に作成をして、有事に備えることが一番の目的となりますが、計画上での特に重要な事項につきましては、主に組織体制、指揮命令系統の明確化です。また、仮置場用の候補地ですけれども、例えば家屋が潰れてしまって、災害が続いてしまう場合に災害廃棄物を一時的に持ってきてもらい、置く場所が仮置場地になります。

その仮置場の事前選定をしておきなさいということ、各種災害廃棄物の処理方法、処分先の検討を図りました。また、災害での避難所や避難人数からの仮置き場の必要面積を算定ができたり、仮設トイレを必要とする推計を行うことができたり、この計画によって、しばらく災害復旧の対応を行えることとなります。その他想定外の事態に柔軟な対応がとれるように厳しい中で、自由度を持たせることもされております。

計画の位置付けですが、2ページをご覧ください。様々な法律と計画の一番下に甲州市災害廃棄物処理計画がありまして、山梨県災害廃棄物処理計画と上位計画の甲州市一般廃棄物処理計画で、先程の処理計画と総務課が策定しております甲州市地域防災計画の中での計画になります。

想定する災害ですけれども3ページをご覧ください。

想定する災害は、甲州市地域防災計画上で、東海地震、想定する災害としておりますので、その被害想定で災害復旧処理計画を策定していますが、ここに書かれている通り、「山梨県東海地震被害想定調査報告書」(平成17年)の古い調査で作成していますが、令和5年5月に公表されました山梨県地域地震被害想定調査の結果や令和6年3月に改定されました山梨県地域防災計画では、地震の想定が南海トラフ地震ですので、被害想定 of 修正など甲州市地域防災計画も大幅な改定が予想されますので、確認したところ、今年度の令和6年の3月に改定予定としておりますので、その改定後、甲州市災害廃棄物処理計画の改定となります。

続きまして、お配りしております第2版として、昨年度に改定をしています。

これは、令和3年度に山梨県災害廃棄物処理計画の改定による災害復旧計画になっており、

主な改定としましては、熊本の豪雨、熱海の土砂崩れ、能登地方の水害など多数の水害が全国で多発して起きておりますので、災害対応の計画が必要という判断で、この計画が改定されております。

水害の場合、地震の災害と比べまして、腐敗性の廃棄物が出やすく、また、畳などの比較的、可燃物が多い水害対策の改定が行われました。

また、甲州市独自の内容も盛り込みまして、24 ページをご覧ください。下のところですが、特記事項のところ甲州市内資機材レンタル会社と昨年、協定をすすめました。

内容としましては災害時の仮設トイレです。

どうしても必要になるもので、災害対応に必要な発電機や夜間照明などの資機材を甲州市に優先的にレンタルしてもらえるとという協定になります。また、甲州市のし尿処理の収集運搬許可業者である 3 社と災害時に避難所に設置される仮設トイレのくみ取り、収集運搬の協定を締結しましたので、掲載させていただきました。

47 ページには、先ほど申し上げました仮置場候補地としまして、五つありますけれども甲州市で災害が起きたときに災害廃棄物の一時仮置場として、二つ目の「甲州市ふれあいの森総合公園駐車場」とですね、三つ目の「甲州市勝沼ぶどうの丘第 2 駐車場」を追加しました。

塩山地域が少なかったので、塩山地域と勝沼地域を増やすことができました。

続きまして、今後の改定についてですが、お配りした資料の山梨県災害廃棄物処理計画です。

令和 6 年の 5 月に第 3 版ということで改定しました。

左下の 3. 今回の改定ポイント をご覧いただき、この①②③に関して甲州市災害復旧処理計画にも関係する内容になりますのでこちらを追加して、今年度、改定したいと考えております。

例えば、②ですけれども、資料の裏面と甲州市災害廃棄物処理計画 32 ページですが、資料裏面の山梨県災害廃棄物処理計画の左側、令和 3 年度改訂版に記載してありますが、こちらの推計で計算するようになっておりますので甲州市災害廃棄物処理計画もこちらを採用した計算式で、災害廃棄物の排出量等の数字を入れ替わる形になります。

今後の改訂につきましても、随時行っていき、審議会で報告させていただきまして、ご承知いただければと思います。

【瀧澤議長】

事務局より説明がありました。

質問ご意見ございますか…私からすいません。

仮置場の候補地の場所が、5箇所と設定されているが、これで十分ということですか？

【事務局:三森】

計画の中の 46 ページで、仮置き場必要面積としまして 0.86 ヘクタール必要で、1.79ヘクタールありますので、足りています。

【瀧澤議長】

実際に設定されていても、そこへのルールが紹介されているのか、車の交通機関もあまり利用できないという状況であれば、違う場所に行く必要があり、技術的には小中学校の校庭とかそういうところを設定した方が良いと思います。

いろんな廃校や環境センターの跡地等が利用できるのであれば、今すぐにではなくて、こういうものだという認識を持ってもらえば良いと思うが…

【事務局:三森】

昨年度、あらゆる場所を確認しましたが、甲州市は中山間地域で、平地が見つからないです。もし、災害が起きて道が遮断される場合、小中学校の校庭や塩山市民グラウンドを使わなければ、使用するように考えています。

先程の意見に関連してですが、環境センターの跡地はかなりの面積があり、当面は緑地化するようですが、建設課に跡地利用を確認して検討させていただきたいと思います。

甲州市の地域防災計画が今年度中に改定をされ、前提となる被害想定自体の数字が全部変わります。地域防災計画の見直しにより整合を図りながら、災害廃棄物処理計画を見直していくと考えております。

【瀧澤議長】

他にございますか。無いようですので、その他に移ります。事務局から何かありますか？

【事務局：中村】

はい。事務局から2点をお伝えさせていただきます。甲州市内の一般廃棄物の処理業者の株式会社コーエイがこれまで木くず、竹、草、がれき類の処理業の許可を持っていましたが、新たに廃プラスチック、ガラスくず、紙くず、繊維くず、金属くず、がれき類を除いたコンクリート、また陶磁器くずの品目を追加する申請があり、令和6年の10月1日付で、許可品目の追加を行いました。

粗大ごみは、年23回、月2回の規模で実施しており、笛吹市の境川町にある甲府・峡東クリーンセンターで処理していましたが、新たに処理先として案内ができることになりましたのでご報告をいたします。

次に、先ほどからもご意見を頂戴しているわけですが、リサイクルステーションの普及促進と適正処理について近年、少子化及び高齢化の背景とした人口減少によってゴミの減量は、自然に減少化している状況ですが、ゴミ処理の市民の負担割合は増えています。

現在、ゴミステーションの設置場所は、917箇所と非常に多いですが、リサイクルステーションは市内の124箇所設置されていますので、例えば、リサイクルステーションの収集場所に変更すると委託料が数千万円抑えることができます。しかし、現状、リサイクルステーションにつきましては、未設置箇所や老朽化による更新等が必要な場所も存在しております。このような課題を解消して、計画的に普及促進等適正な処理を利用者に周知する必要がありますので、今のところ検討段階ではございますが、今後の展開によっては委員の皆様にお諮りすることもあると思いますので、ここでお伝えさせていただきました。

【瀧澤議長】

確認ですが、1点目は、株式会社コーエイさんが廃棄物の処理の品目が増えたので、従来行っていた拠点回収を減らして、いきたいということですか？

【事務局：坂本課長】

すいません。まず、コーエイの件は、これまで持込む場所もなかったところが条件整備を行い、甲州市で処理できるように許可をしたという形になりますので、周知を進めながら、活用を図っていくことで、将来的には、拠点回収の回数を減らすことも検討したいと考えています。

【瀧澤議長】

わかりました。

2点目は、現状、ゴミステーションでの回収をコストの削減のためにリサイクルステーションで回収するということですか？

【事務局:坂本課長】

そちらについてもまだ想定の中でのお話ですが、今、製品プラの回収についても、分別回収を進めていくということで、甲府・峡東クリーンセンターの対応の確認をしています。将来的には甲州市も製品プラについても分別回収ができればと思っていますが、回収過程でどういうふうに解消していくか、また人口減少している中で収集所が多くなっていることも含めて検討できればと思っていますが、先ほど、まず、ゴミの減量化、資源化っていうのは容易に出せる環境が大事だという話もありましたので、将来的に向けて、考えていきたいと思っていますので、特にここでご審議をいただいてから来年、再来年というところではないので、製品プラの回収の時に回収方法が課題になってくると思いますので、容器包装プラとの扱いをどうしていくのかは先の話ですけれど、そういう想定が出てきたので、報告させていただきました。

【瀧澤議長】

わかりました。

その辺は、頭に入れて、ごみの処分を行っていきたいと思います。

その他に何かありますか？

次回の審議会のスケジュールは？

【事務局:中村】

年度内の2月、3月に来年度の計画の見直しに向けて審議会を開催させていただきたいということで、先ほどいただいたご意見も整理をしてから、来年度は審議会委員の2年任期の更新になりますので、ぜひ、再任をお願いいたします。

【瀧澤議長】

他にございませんか。

【事務局:中村】

以上で、甲州市廃棄物減量等推進審議会を終了いたします。

本日は大変お疲れ様でした。